

ごみに対する意識向上を

■異臭騒ぎ

今年2月、市のごみ処理施設「環境プラザ」で異臭騒ぎがあり、建物内で作業をしていた職員が体調不良をうったえ、そのうち数人が救急搬送されました。幸いにも全員症状は軽く、大事にいたるところはありませんでした。

一般の方々から持ち込まれた可燃ごみや粗大ごみの分別作業中に、目の痛みなどを引き起こすかなり強力な気体が発生し、先のような事態となりました。原因となった気体はすぐに拡散し、ガスの検出や酸素濃度の異常は確認できませんでしたが、その後、ごみの中からふたの空いた農薬の容器がみつかり、その成分からおよそ今回の異臭騒ぎの原因はその農薬だろうということになりました。

■それ以外にも

令和5年5月、同じく環境プラザで水素爆発による火災が発生しました。焼却灰の中にアルミごみが入りこみ、その焼却灰を冷やすためにかけた水とアルミごみが化学反応を起こし、水素爆発が起き、火災が発生したのです。原因は一般家庭の収集ゴミの中に相当量のアルミが捨てられていたためでした。

幸いなことにこの事故でもけが人は出ませんでした。ただ施設の一部がこわれ、事故調査と修繕のために一般ごみの受け入れを一時ストップしなければなりませんでした。

さらに遡ること令和5年3月、象潟にある一般廃棄物処分場で火災が起きまし

た。本来、埋め立て処分場に可燃物は捨てられないのですが、そこに綿素材の布製品が捨てられていたために、いわゆる自然発火による火災が発生したのです。

■わかってもらいたいこと

ごみの分別については、毎年のゴミ出しカレンダーの全戸配布とイラスト入の分類表の市HP掲載などにより、だれでも確認できるようになっています。また、環境プラザ等の現場でも職員等がごみを持ちこんだ人たちにきちんとごみの分別をするように注意喚起したりする場合があります。その目的は「安全」のためです。もちろん、ほとんどの方々はきちんとルールを守ってくれています。ただ、「ちょっとくらいなら平気だろう」といった安易な気持ちに引つ張られてしまっている人がいるということです。

たまたま今回の事故や火災は大きなものにならずに済みましたが、もしかしたらもしかしていかたかもしれません。やはり、今回の事故および火災をもって、私たち一人ひとりがもう一度考えて行動する機会としなければならぬと強く感じるところです。

■ごみの減量化にむけて

いま市では令和4年度に改定した「一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画）」にもとづいてごみの減量化に取り組んでいます。

にかほ市におけるごみの排出状況は正直好ましいものではありません。昨年度の調査でも、一人一日当たりのゴミの排

出量は全国平均、県平均を大きく上回り、県内でもワーストに近い状況です。しかも令和3年以降、ごみの排出量はますます増えており、ごみの減量目標はいまままでは達成できない状況です。脱炭素社会の実現が叫ばれるなか、にかほ市にとって、ごみの減量化は大きな課題といえます。

ごみの量が減らないのは、ごみを捨てやすいからなどといった、決してそんな安直な話ではありません。むしろ、ごみとして捨てるしかない状況になっていると捉えなければならぬと思っております。今回の事故や火災についても分別の徹底によるごみの減量化がきちんと行われていれば防げたと思います。

使いづらいといわれている燃えるごみ袋についても、形やサイズ、素材を使いやすいものに変更し、市民サービスの改善をはかりながら、ごみ分別の徹底やリサイクル率の向上、一人ひとりのコスト負担のあり方などを同時に検討していかなければならぬと考えています。

まずはごみに対する意識を向上させていくことです。それが事故や火災を防ぐための近道なのだと思います。



にかほ市長
市川雄次

創造を

想像する

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

